

## 独立住宅居住者の住宅選択行動に関する研究 (第2報) 岐阜県都市部居住者のライフスタイルと住志向

○新田 米子\* 渥美 正子\*\* (\*岐阜聖徳学園大短大 \*\*愛知淑徳大)

**目的** 本報では、岐阜県都市部における独立住宅居住者の住志向をライフスタイルとの関連で把握し、今後、地方における独立住宅の様式がどのような方向に進展してゆくのかを探ろうとするものである。

**方法** 本研究第1報に準ずる。本報の分析は、前述アンケート調査有効回収数273を対象とした。

**結果** 1) 現住宅の工法は、〈洋風自然志向〉(タイプⅠ)と〈洋風利便志向〉(タイプⅣ)でプレハブ工法が多く各々4割強を占め、〈和風自然志向〉(タイプⅡ)の7割弱、〈和風利便志向〉(タイプⅢ)の4割強が木造軸組工法を占める。2) 和・洋室の志向を和室数と続き間和室保有率からみると、和室3室以上の保有率は、タイプⅡで7割弱、タイプⅢで6割と和室派が多く、続き間和室についても同様にタイプⅡ・Ⅲが高率となる。3) インテリア志向を居間の床仕上げと壁仕上げでタイプ間比較をすると、床では各タイプとも板張が多くを占めるが、タイプⅡでは他タイプに比べ畳床が3割を占めタイプ間に差が認められる。壁仕上げにおいてもタイプⅡは他タイプとやや異なり、自然素材志向が若干みられる。4) 住宅を建て替えるとした場合のその工法・依頼先の希望は、工法でタイプ間に差が認められたが、依頼先では顕著な差は認められなかった。5) 今後住宅に取り入れたい和・洋の住要素では、全体的に和風要素の種類がより多く上げられ、それらは、縁側、畳、続き間和室、障子戸、無垢板壁・床、和瓦、仏間等である。タイプⅡ、Ⅲは当然ながら和風要素の志向度が高くなるが、タイプⅠにおいても和風要素を取り入れることへの関心が低くないことが確認された。